

釣り場裏はゴロタ浜が広がり、当日はウネリにより『ゴロゴロ』と石砂利が擦れ合うような音が1日中響いていた。そのため魚が嫌うようなゴロリが発生していた様だ

★取材協力/若吉丸(西方船長)
間泊港 Tel.0994-26-1365
フィッシング南海(鹿児島市)
Tel.099-252-8993



魚は根に張り付いたが、道糸のテンションを緩めると再び動き始めた!

サラシの潜り潮に入れて底近くで喰わせた2尾目



▲嬉しいシマアジ! よく突っ込み、口切れしやすいので、やりとりは慎重に



悪条件の中、価値ある1尾を仕留めた野間さんと大山さん。お二人とも**グラスモードの偏光グラス**を愛用し好釣果を上げている!



今回の1尾目のクロは、サラシの沖に仕掛けを入れて、潮がちよつと沖に引つ張られそうになった時に、ウキを押さえ込むアタリがあり、誘いを入れたら喰ってきました。2尾目は足元に仕掛けを入れて、サラシの左脇から沖に流した時に、

秋磯でツケエサが付いたまま仕掛けが帰ってくることはほとんど無いのですが、まれに今日のような海況の日があります。このような時は、あきらめる前に、エサ盗りを寄せる事を一番に考えて、そしてツケエサが盗られる所やタナを把握する事が大事だと思います。

最後に

バタと釣れ、次に待望のエサ盗り「オヤビッチャ」。普段ならばオヤビッチャが釣れたら手前にエサ盗りを寄せて、沖でクロを喰わすのがセオリーですが、今日はオヤビッチャが釣れた所をポイントにして、仕掛けを入れるタイミングを計っていきます。するとやつと来ました、型は30cm位ですがこのクロは嬉しさが別格です。その後、32cm程のクロをもう1尾釣り上げタイムアップとなりました。



40cmほどのイシガキ好釣果の時仕さん!



良型クロとイサキでばっちりの四元さん!

サラシに採まれて入って行ったウキを、道糸を張りながら深く入れ込んで、底近くで喰わせました。釣り上げる途中、張り付いたり、瀬をこすったりしながら取り込んだ価値あるクロでした。型は小さいけれど、私にとつては50cmのクロに匹敵する価値ある2尾でした。クロ釣りはこれから本格シーズンです。皆様もいろいろ考えて価値ある1尾を釣って下さい。